



埼玉大学基金
令和4年度

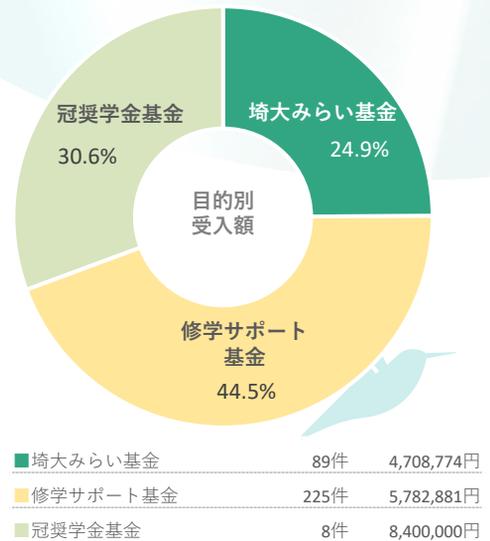
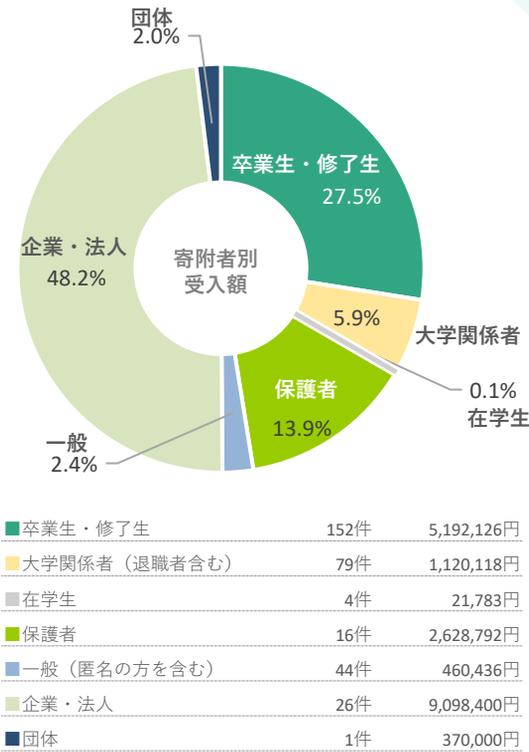
活動報告書

令和4年度受入の概要

ご寄附受入額 （令和4年4月1日～令和5年3月31日）

埼玉大学基金にあたたかなご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。皆さまからのご寄附は、目的の趣旨に則って有効に活用させていただいております。

寄附受入件数 **322**件 / 寄附受入総額 **18,891,655**円



寄附受入額の推移 （年度別）

寄附目的	第1期（2013年～2019年10月）						第2期（2019年10月～）				合計
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
埼玉大みらい基金	-						11,557,960	1,948,276	52,854,216	4,708,774	71,069,226
冠奨学金基金		-					1,200,000	7,700,000	14,300,000	8,400,000	31,600,000
埼玉大学修学サポート基金				1,706,000	1,185,000	1,815,305	849,000	65,263,000	34,728,392	5,782,881	111,329,578
インターナショナルレジデンス新設事業	6,637,500	290,862,652	2,473,595	46,943,194	3,913,364	2,795,348	2,602,151	※2019年9月募集終了			356,227,804
目機能強化等将来構想実現に向けた中・長期戦略事業	499,500	1,163,000	945,000	1,088,000	4,011,000	3,447,976	104,050,000	※2019年9月募集終了			115,204,476
合計	7,137,000	292,025,652	3,418,595	49,737,194	9,109,364	8,058,629	120,259,111	74,911,276	101,882,608	18,891,655	685,431,084

令和4年度の活動報告

支出合計 **13,545,702円**

〈令和4年4月1日～令和5年3月31日〉

皆さまから賜りましたご寄附は、教育・研究活動支援として各事業に活用させていただきます。ここでは活用事業をご紹介します。

埼玉大みらい基金

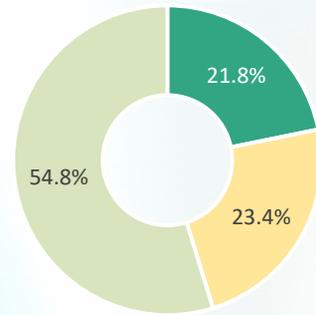
2,954,068円

修学サポート基金

3,171,634円

冠奨学金基金

7,420,000円



埼玉大みらい基金

～ウクライナからの避難学生3名への支援を行いました～

本学と学術交流協定を結んでいるタラス・シェフチェンコ記念国立キーウ大学言語学院の学生2名及びポルタワ国立教育大学の学生2名の4名に対し、避難学生として特別科目等履修生等として受け入れ、授業料免除等の支援を行いました。また、そのうち3名の学生に対し、本基金より生活支援として渡航費・生活費等の支給を行いました（1名は他の機関より生活支援を受けていきます）。おかげさまで、それぞれの夢に向かって日本語や日本文化に触れながら充実した大学生活を過ごしました。

本支援については、ウクライナの情勢悪化のニュースが報じられた直後、冠奨学金基金として継続的にご支援いただいているエネグローバル株式会社様より、ウクライナ留学生へのご支援のお申し出をいただきました。多大なご寄附をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。



ウクライナからの避難留学生による表敬訪問の様子(2022.10.14)

修学サポート基金

～昨年に引き続き学食にてフード支援を行いました～

皆さまからのあたたかいご支援により、本基金から「コロナ禍フード支援プロジェクト」として、令和4年11月～12月に、1食あたり350円を補助する『自分定食』を実施し、計約18,000食を学生食堂で提供することができました。

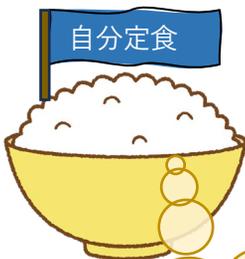
コロナ禍が収束しない中、原油高等による食料品など生活必需品の高騰により食費を削らざるを得ない学生たちにとって、食を通じた学生へのサポートは非常に有意義なものとなりました。

利用した学生からは、「パンやおにぎりで済ませていたけど、食堂で温かいものを食べられてうれしい。」「前回よりも自由に献立を選ぶことができるので、バランスの良い食事ができて助かります。」「少額の負担で十分満足できる食事ができるなんて、感謝しかない!」などの喜びと感謝の声が聞かれました。

充実した学生生活を送れるようこれからも様々な取り組みを行っていきたいと考えております。ご支援いただきました皆さまには、あらためまして感謝申し上げます。



学生食堂で「自分定食」を利用する様子



学生食堂のメニューから好きな献立（麺類＋副菜OR定食＋もう1品の副菜など）を選び、350円を超えた分は自分で支払うものです。



冠奨学金基金

寄附者の方のご意向に沿う形で学生をご支援いただく制度です。埼玉大学基金の前身である埼玉大学発展基金で設立されたものを含め、2022年度末現在、下記のとおり11件のご支援をいただいております。

- 大内新興化学工業奨学金
- 白楽ロックビル奨学金
- MARELLI奨学金
- エネグローバル奨学金
- 大栄不動産奨学金
- デジタルベリー奨学金
- 武島(志方)明子奨学金
- 高脇基礎工事奨学金
- 祐昭奨学金
- 大志奨学金※
- Max会奨学金※ (設立順)



※給付開始は令和5年度～

エネグローバル奨学金 (研究賞授与式の様子)



支援を受けた学生からたくさんの感謝の声が届いております。
その一部をご紹介します。



この度は素晴らしい機会を与えていただき、心より感謝申し上げます。この奨学金は私が見識を吸収し、将来の可能性を広げるための非常に貴重な援助となりました。現在、大学院ではペンライトと過去のコンサート映像を用いた、インタラクションに関する研究を行っております。コロナ禍で真っ先に制限された“娯楽”ですが、私はなくてはならないものだと考えています。そこで、いかなる状況下でも人々の心の支えである“娯楽”を失わずにいられるかを、研究活動を通して常に考えてきました。将来的には研究活動を通して得られた、前向きに物事へ取り組む姿勢や、人の役に立ちたいという精神を持って、社会及び人の役に立つような仕事に就きたいと考えています。今後もさらなる成長と学びを追求し、奨学金をいただいたことに値する人間になるよう精進し続けます。改めまして、わたくしの可能性を信じていただき、奨学金を提供していただいたことに心から感謝いたします。

大学院理工学研究科 修士1年

この度は、奨学金を寄附していただき、ありがとうございます。私は現在、大学院で人間の色の鮮やかさの知覚に関する研究を行っています。自然画像を見た際に、人間が彩度を自然または不自然に感じる境界がどのような要因で決まっているのかを調べる実験を行い、人間の、色の鮮やかさの感じ方に関するメカニズムを解明することを目指しています。今回寄附していただいた奨学金が、自分が大学院で研究活動を行えていることの支えになっていると感じています。また、奨学金を頂いたことは、自分が様々な支援を頂きながら学生生活を送っていることを強く意識するきっかけとなりました。今後も、支援して下さる皆様への感謝を忘れないよう、研究活動をしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

大学院理工学研究科 修士1年

冠奨学金基金



学生からの感謝のこぼ



まず初めに、私を奨学生として選んで頂けたことに感謝申し上げます。私は現在、埼玉大学大学院にて情報工学と認知科学を組み合わせた領域の研究に取り組んでおります。大きな目標としては、脳の情報処理の仕組みを解明することで、実際の情報処理に応用し、より効率的な情報処理を実現するということを目標にして日々精進しております。また、頂いた奨学金は主に定期券と技術書の購入を主な使途として使わせていただいております。特に現在は応用情報技術者の取得を目指して勉強しております。将来はIT・通信の分野で優れた技術者となり、日々の暮らしに欠かせない縁の下の力持ちとして社会貢献ができるような人間になることを目標に日々邁進しております。最後になりますが、厚く御礼申し上げます。

大学院理工学研究科 修士1年

この度は、誠にありがとうございました。頂いた奨学金は、4月に受けた基本情報技術者試験の受験費、今年の秋に受験予定の応用情報技術者試験の参考書代や受験費用に当てさせていただきます。現在は大学での学業以外にも、機械学習、データ分析に興味を持っていて、人工知能開発団体に所属し、基礎的な部分の学習に励んでいます。そして、今後はその道に進みたいと考えています。具体的に何をしたいというところまでの展望は見えていませんが、機械学習やAIなどの知識を生かして、医療現場に役立つシステムの開発に携わりたい、と考えております。そのために、学生の間基礎的な部分の習得、データ分析コンペへの積極的な参加やAI関連の実務に携われるように、精進してまいります。この度は本当にありがとうございました。

工学部3年

奨学金を授与いただきました。誠にありがとうございます。奨学金をいただいたことは、経済的な支えとなっていることに加え、精神面にも大きな影響を与えています。ご寄附をいただいたことへの感謝や、奨学生に値すると認められたことは学修の励みであり、私の原動力のひとつとなっています。また、奨学生の名に恥じぬよう、身の引き締まる思いで日々学んでいます。

いただいた奨学金は、教科書や専門書の購入などに利用しています。専門的な書籍は高価なものも多くあり、金銭的に余裕がある状況ではないため、指定の教科書以外の書籍は購入を躊躇することも少なくありません。奨学金をいただいたことを、技術や能力を向上させるための機会をいただいたと捉え、関心のある書籍を購入するなどして自己研鑽に努めています。最後に改めてお礼を申し上げます。



工学部 3年

冠奨学金基金



学生からの感謝のこぼ



この度は奨学金へのご寄附をいただきありがとうございます。私はフランスへ留学することを目的に奨学金を希望し、学業に励んでまいりました。そして、半年間の留学生生活を終え、先日無事に帰国することができました。留学中は、私が興味を持っていたフランス移民政策についての学びを深めることができました。実際にフランスへ行くことで、日本での授業や教科書では学べない、リアルな学びを得られました。また、学問だけではなく、友人との会話を通じて日本を見つめ直したり、一人暮らしによって自律した生活を送ったりと、人間としても一回り成長することができました。これもひとえにのご支援のおかげです。重ねて御礼申し上げます。末筆ではございますが、皆様のご多幸と貴社の発展を心より祈念いたします。

教養学部 4年



この奨学金をいただいたときは1年生でまだ何もかもが決まっていませんでしたが、欧米文化研究専修のアメリカ研究専修に進むことになり、日々英語に囲まれながら勉強に励んでいます。奨学金を使用して春休みに1ヶ月間オーストラリアで短期留学を経験しましたが、そこでの学びが大きくもっと他の国の方の意見や物事に対する考え方の違いを感じながら学びたいと思い、3年生の秋から1年間の長期留学に挑戦しようと考えています。私は英語の教員免許を取得するための講義も履修しているため、1年間の留学を挟んでしまうと実習などの日程の関係で5年生をやることになってしまいますが、たくさん学べるのは今のうちだと思い頑張りたいと思います。自分のこれからを決める貴重な経験の場をくださり、ありがとうございました。

教養学部 2年

この度は、奨学金を受ける機会を与えていただき、心から感謝申し上げます。現在、私は理工学研究科環境社会基盤専攻の交通計画グループに所属しています。この研究室で、私は交通安全の研究に取り組んでいます。交通安全とは、一般的に人々が安全で快適に移動できるような社会にするために研究していく分野になります。ところが私の研究では、沖縄県西表島の天然記念物であるイリオモテヤマネコをロードキル（自動車による事故）から守るための研究を行っています。国の財産を守るという意味で、とても重要な研究であると考えています。学部4年生の時から進めており、今年度からはより高度なシミュレーションシステムを用いて、より高度な解析を進めていこうと考えております。こうした研究を始めとして、将来的には道路交通に関する様々な研究を行っていきたくて考えております。今後も研究の成果を上げるために、頂いた奨学金を活用し日本、世界の交通事情を学び、将来のより良い社会の実現に貢献するため勉学に励み頑張っていこうと思います。ありがとうございました。

大学院理工学研究科 修士1年

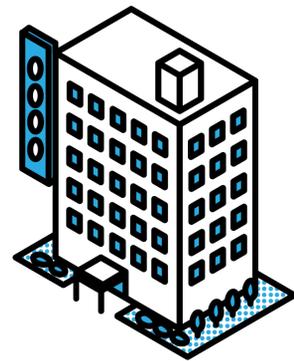
冠奨学金基金



学生からの感謝のこぼれ



奨学金をご支援いただき、誠にありがとうございました。私は、建設分野で用いられているプレストレストコンクリートについて日々研究を行っています。PC橋は広く実社会に用いられていますが、損傷が発生したPC構造物の性能を的確に評価する手法は未だ確立していません。そのため、劣化が生じたPC梁の性能評価やそれに対して補修・補強を施した際の効果について実験や解析を通して明らかにしていきたいと考えております。そして、将来はインフラ整備に関わる企業へ就職し、大学で学んだことを活かしながら社会貢献ができるようになりたいと考えております。私自身が研究に集中して取り組んでいることや将来の目標に対して本気で打ち込めているのは、本奨学金を頂くことが出来たためだと考えております。ご支援いただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。残りの学生生活においても、勉学に集中して取り組み、より一層修養を積むことで自分の目標を達成できるよう精進していきたいと思っております。



大学院理工学研究科 修士1年

このたびは奨学金をご寄附していただきありがとうございます。いただいた奨学金は主に生活費にあてがっております。

私は現在、大学にて微細藻類を用いたバイオ燃料生産に関する研究に取り組んでおります。バイオ燃料は従来の化石燃料に代わる代替エネルギーであり、持続可能なエネルギー源として注目されています。こうした新世代エネルギーの実用化に貢献していきたいと考え、研究に励んでおります。また、微細藻類を用いて効率的にバイオ燃料を生産するには、藻類が活発に光合成を行い、燃料物質を生産する必要があります。そのため、より効率的に光合成を行わせる必要があります。こうした光合成に関する知見は食料生産にも役立てられると考えられます。将来的に、光合成やそれに伴う物質生産の観点から社会に役立てるような研究をなせるように日々精進しております。

大学院理工学研究科 修士1年



奨学金を給付していただきありがとうございます。これを励みに自分の研究だけでなく、教育学をさらに深く研究していきたいと思っております。児童がよりよい学校生活を送れるようなそんな支援ができる教師を目指したいと思っております。

教育学研究科 大学院1年

冠奨学金基金



学生からの感謝のこぼれ



奨学金の支援ありがとうございます。私は今、主に2つのことを頑張っています。1つ目は研究活動です。私の研究テーマは電動キックボードの安全運転支援に関する研究です。最近、道路交通法の改正により電動キックボードの規制が緩和され、条件付きで歩道も走行できるようになりました。しかし、自転車でも歩道での事故が多く起こっているように電動キックボードでも歩道での事故などが懸念されています。そのため、歩道で電動キックボードが正しく走行できるようにしたいと考えています。今の目標としては、今年度中の学会発表に向けて、卒論をベースに奮闘しています。

2つ目は、インターンシップです。私は企業の課題を解決するインターンシップを行っています。

研究室で学んだサーバ関連の知識や足りない場合は学びながら取り組んでいます。このインターンシップを通して、社会が抱えている課題を解決に貢献することで人々が暮らしやすい社会をつくりたいと考えようになりました。そのため、いただいた奨学金は必要な知識を広げるために参考書などの購入に使っています。また、奨学金を通して、自分がこれまでやってない新たなことにどんどんチャレンジするようになりなした。例えば、私はあまり他人とかかわることが苦手でしたが、社会課題に他学科の人たちとグループワークを通して解決策を考えることに取り組んだり、プライベートでは、インドア派でしたが、寺社の御朱印集めをしたりするようになりました。このように、いろんなことに挑戦するきっかけをくださったことにとても感謝しています。ありがとうございました。



大学院理工学研究科 修士1年



この度は、私の成長の為に大きなお力添えをいただき誠にありがとうございます。感染症下でも自分なりにできることを考え、取り組み続けた今までの大学生活は間違っていなかったのだと思うことができました。奨学生としての自覚を胸に、1年を切った残りの大学生活に悔いが残らないよう、今後も挑戦し続けてまいります。お寄せくださったお気持ちは、なりたい自分に近づく為に使用させていただきます。大学生活に彩りを与えてくれた留学生との様々な国際交流の経験と、それを支えてくださった職員の方々への憧れから、卒業後は国籍や年齢、障害の有無、性的指向などがそれぞれ異なる学生の想いに寄り沿って、その挑戦を後押しできる大学職員になりたいと考えています。そのために感染症下で難しかった海外での、現地の方との対面コミュニケーションやボランティア活動、幅広い分野の研究者の最先端研究を学ぶなど、学生の身である今だからこそ打ち込めることに取り組み続けます。それらの経験を通して、自分のことだけでなく後の世代のより良い学びとは何なのかを日々模索し続けていきたいと考えています。今回いただきました御恩を、他の方の学びを支える立場となることで、広く社会に還元していく所存です。どうか今後も未来を創っていく私たちの成長を見守りくださいますと幸いです。

教育学部 4年